



第24号  
(発行所)  
真宗大谷派  
松岡山 廣讚寺  
中村区城屋敷町3-30  
TEL(052)411-5301  
FAX(052)411-5341

### 集まること

毎月学習会とか女人講とか各種の集まりがある。参加する方々の雑談に耳を傾けるのも楽しみの一つである。

「毎晩よー、寝る時によー、明日の朝はどうなっているか心配でたまらん時もあるのだわ」  
そうすると誰かが、

「南無阿弥陀仏を唱えるだわ」

「それがでてこんのだわ。孫が気になったり息子の健康からだを心配したりで、よー寝れんのだわ」

こんな会話はどこにでも転がっている。若いころは「ばかげた老人どものたわ言」と一笑にふしていたが、今の年になってみると人生の味わい深い言葉のような気がする。ここで聖人のお言葉『すみなれた娑婆しやばはなつかしく、未だいまみぬ浄土は恋しくなく候』が浮かんでくる。

人間は無駄には年を重ねるものではない。どんなに遊びぼけたり親不孝を重ねたとしても一年は一年として年

輪を重ねるものだ。年輪はその人の人格となる。その人なりの情感があり、独自の言葉を持つようになってくるものである。そして己の世界を形成するのだが、このなるともならない世界、どうしようもない世界。年老いて体力・知力が失われはじめてやつと自己の無力さが真実の人生の姿であったことを悟るものだ。

『若いころ怖いものなしで何事もやってのけられると思っただのは幻想だったことに気づくものである』

この年になってしまった。死んでいく年齢になってしまった。死ぬことは拒みはしないが六親の絆きずなは断ち難いものだ。明日はどんな人生ドラマが展開するか、老いの夢とはどんなものかと考えさせられる。

「南無阿弥陀仏がなかなかと言えんのだわ」  
ここで聖人のお言葉（和讃現世利益）

南無阿弥陀仏をとなうれば

四天大王もろともに

よるひるつねにまもりつつ

よろずの悪鬼をちかづけず



## 私の母

さく女

母はどちらかというとおしゃれさんだった。きれい好きだった。襟元の白いレースがいつもまぶしいほどであった。姉さんかぶりして働くことはいとうことはなかった。というよりも働くことが好きであったように思えた。母の手は老年になっても輝いていた。

そんな母が急に発病した。世間では認知症と一口に言っているが、私はこの言葉は好きではない。母はだんだん小さくなっていった。そして幼児の「やんちゃ」の姿を示しはじめた。

戦前戦後、子育てはえらかったと思う。母は近所の娘さんたちの嫁入りの世話もよくしていた。衣装や小道具を貸してあげたが、戻ってこなかったと残念がったこともあったそうだが、こんなとき母はいつも「まあいいか、仲良くやってみえるから」が口癖であった。

いま手元にたった一つ、角隠しの飾りがある。母からの大きなプレゼントだと思っている。

## 春

雛めぐりひな

わが年齢の雛に逢ふ

百春の

仕込水清む

春の冷

そこはかと

心の弾む

節替り

うすらひや

名残りの旅を

紡がむと

つくしんぼ

袴はかまとる人

何時も祖母

えみ女



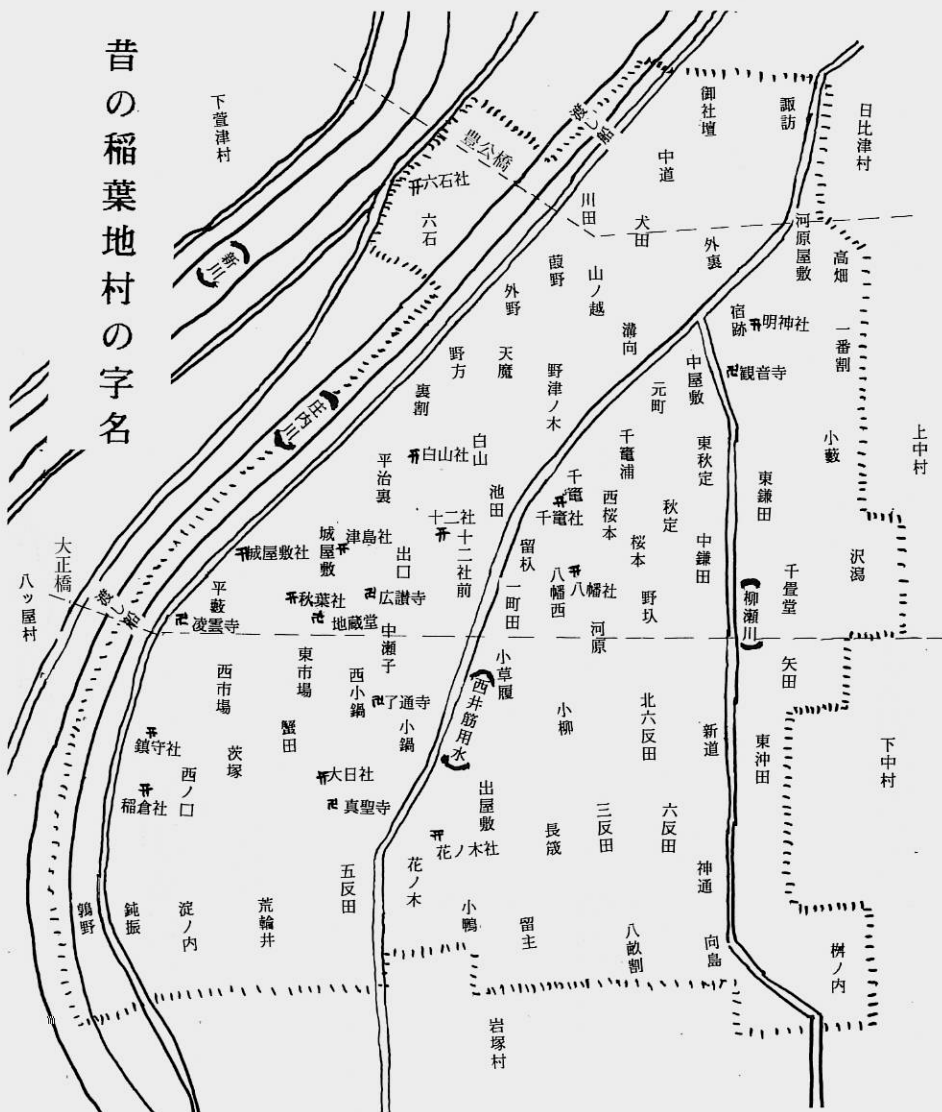
おめあさんしつてらあすかなも

伊藤和美

昔稲葉地村には七十四の字があつた。その字名と社寺を地図で示す。

- 廣讚寺 字出口十九番地
- 了通寺 字小鍋四十八番地
- 凌雲寺 字平藪五十三番地
- 莫聖寺 字五反田七番地
- 観音寺 字宿跡六十番地
- 地藏院 字中瀬子十五番地
- 城屋敷社 字城屋敷九十番地
- 花の木社 字花の木二十一番地
- 大日社 字西小鍋五十七番地
- 鎮守社 字西の口三十六番地
- 稲倉社 字西の口八十四番地
- 秋葉社 字中瀬子十四番地
- 十二社 字池田五十四番地
- 白山社 字白山四十八番地
- 津島社 字平治裏十三番地
- 八幡社 字八幡西八十二番地
- 千竈社 字千竈二十四番地
- 明神社 字宿跡五十七番地
- 六石社 字六石十一番地

昔の稲葉地村の字名



※行事予定 (三月)

三月十三日(土) 六時 同朋委員会・総会

十九日(金) 二時 学習会

〔春季彼岸永代経・蓮如講 執行〕

三月二十一日(日) 十時 おつとめ・委員長報告

おとき 説教前田健雄師

一時 おつとめ

三時 帰敬式

二十二日(祝) 三時 おつとめ・法話

二十三日(火) 三時 おつとめ・法話

二十四日(水) 女人講・報恩講

十時 おつとめ・住職法話

おとき

一時 おつとめ・住職法話

二十八日(日) 十時 二十八日講・総会

※行事予定 (四月)

四月十日(土) 七時 同朋委員会

十九日(月) 二時 学習会

二十八日(水) 十時 二十八日講・女人講

『親鸞聖人七百五十回御遠忌法要』

廣讚寺から 京都本山へ  
団体参拝します。

※来年

平成二十三年四月二十四日(日)

みなさんご参加ください。